

こだま通信

31号



[編集] 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19 ☎&FAX 0852-28-8162

新年明けましておめでとうございます

2013年が始まりました。NPOこだまは今年11年目を迎えます。これまでの実践を大切にしながら次の5年、10年への歩みを進めて参ります。どうかよろしくお願ひします。

これまでの10年、これからの10年・・・

2003年4月に始まった支援費制度にあわせて事業開始した我々のこだまも10年が経った。この10年の障がい者への施策は大きな転換点にあった。それまでの行政による措置制度から、利用者と事業者が対等な立場に立ち契約に基づいたサービス利用がはじまったのである。とはいえ、いくら対等とは言っても、圧倒的に事業者数が少ない現状では、事業者が優位になってしまふ。利用者本人が事業所を選ぶことができる制度になっていても、根本のところが整っていなかった。

こだまは、そんな状況の中、少しでも利用者の立場に立ったサービスが提供できる事業所を作っていくう、と創立した。それまでの経験から、街の中に小回りの利く小さな事業所が沢山できることが、利用する側にとっては絶対必要である。また事業者同士の競争意識も生まれ、より良いサー



ビスが提供できるようになるとの考え方から、こだまは最小定員の事業所でありつづける決意をした。そうしたこともあり若い職員にはこだ

まからの独立を常に呼びかけているのだが‥。

これまでの10年、制度の創成期につきもの毎年のように変わる制度に対応しながら、日中活動の場と、ホームヘルプのサービスを提供してきた。こだまを支持してくれる利用者の方たちに恵まれたことは、本当にありがたく、これまで事業を継続できた大きな力になった。事業開始以来の利用者数は160名にのぼる。本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいである。

さて、これから10年、こだまはどんな歩みをして行けばいいのだろう。自立支援法が始まったとき、ケアホームやグループホームの検討を始めたがサービス管理者の配置など小規模な事業所では難しいと判断して、近隣の事業者との連携をはかる方針を確認してきた。しかしショートステイなどの利用には繋がったものの、ケアホームの利用にまでには至っていない。

こここのところ、生活の場の必要性を強く感じる場面に、多く出会うようになって来た。これからこだまの10年には、成人になってこられた利用者の方の生活の場の問題を真剣に受け止め、解決していくことを求められているように思える。街の中の小さな事業所として出来る、生活の場作りを若い職員を中心に進めてもらいたいと思う。

(→4 ページへ)

サービス部からの報告

生活介護近況

11月23日、秋の鍋大会をしました。いつもなら当日食材を買いにいって、みんなで調理をして食べるというだけの企画。ちょっと趣向を変えよう、もっと楽しい鍋になるように、たべてしまわせになる鍋に・・・と企画を考えました。

参加するみんなに家庭から食材を1人1品ずつもってきてもらうことになりました。当日肉・魚は購入するとして、職員も含めてみんなで持ち寄ったものだけで鍋をつくっていくという、どきどきわくわくの企画になりました。朝送迎にいくと「ぎりぎりにいってくるから困ったわ（笑）」「こんなんしかないけどいい？」とお母さん。それでも「楽しい企画ね！」とご家族も少し活動に参加した気持ちになられたのではないでしょうか。

朝礼時に持ってきた食材を発表です。一人ひとり何をもってきたのか伝えてもらいました。順番に自分のカバンや、握りしめたレジ袋から中身をみせてくれました。

「○○さんが持ってきたのは、なんと！」「じゃん白菜！」「おお～！」といった具合に発表し、その度に拍手と歓声があがりました。食材がそろっていくうちに、どんどんテンションがあがっていきます。ネギや白

 菜ばっかりになったらどうしようなどと少し心配していましたが、とってもバランスよく食材が集まり、おいしい鍋ができあがりました。自分たちがもってきたものなので、食べる時もうれしさ

ひとしお。そんな表情がたくさんみました。

わたしたちは、遊びでも作業でもみんなの笑顔やいきいきとした表情をいかに引き出すかを考え、これからも「利用者が主体的にとりくむことのできる活動」を目指していきたいと思います。【川上 太郎】

ポレポレ近況報告

9月の終わりから弁当の注文が増え始め、現在では1日平均の製造数が70個くらいになってきました。毎日てんてこ舞いの忙しさですが、これは嬉しい悲鳴ですね。利用者のみなさんも手際よくあっという間に盛り付けをされるようになってきました。

12月に入り特注のお弁当もたくさんありました。1日で150食を超えるお弁当の製造をした日もありましたが、みなさん丁寧に盛り付けをして下さいました。

また、ボジョレー・クリスマスには恒例行事になりつつあるチキンの製造もさせていただきました。どちらも100食近い注文数があり、朝からポレポレ総動員でローストチキンづくりに励ませていただきました。

そのおかげもあり、利用者のみなさんは12月末にわずかではありますが、ボーナスを支給させていただきました。そのほか野菜の売れ行きも好調で新鮮な朝



採れ野菜がポレポレの野菜市を毎朝賑わせています。ぜひ一度、足を運んでみて下さい。

このところ、目が回るような忙しさで毎日やっていますが、利用者の皆さんには日を追うごとに作業の効率・能率が上がってきています。みんなのレベルアップに負けないように職員も頑張りたいです。みんなでもっともっとお客様に喜んでもらえるお弁当作りをしていきましょうね。

【森山 宏之】

ホームヘルプサービス近況

休日にこだまの移動支援サービスを利用している方のご家族からうれしいお話を聞きましたのでちょっとだけ紹介します。平日に利用している事業所からパン屋さんへ出かけた時に今まで入ることができなかった店内に入り、自分でパンを選んで買うことができたと聞いてとてもうれしかったそうです。今まで家族が選んで買ってくるパンを食べていたのに自分でお店に入り選んで買うことができたのも移動支援で出かけていた



おかげです。と話してくださいました。

こだまのホームヘルプサービスではいつも「できるようになる支援」を心がけています経験を積み重ねると生活がひろがるのだなとあらためて思いました。ご家族のお話を聞きながらつぎはどこへ行く計画を相談しようかなと顔を思い浮かべ私もうれしくなりました。

【岩田 里美】

秋・冬の行事から・・・

こだま屋台村 9月27日

今年の夏行事は、話し合いの結果昨年好評だった屋台村に決まりました。決まってからは職員はやる気満々で、去年よりも盛り上がるよう、おいしいものが食べてもらえるようみんなで話し合いや試食会を繰り返しました。



屋台のメニューは、ご飯物、パン、麺類、汁物などそれぞれ得意な料理がならびました。試食もそれぞれで何度も繰り返し、料理に磨きをかけました。私の所属する生活介護は職員の試食会の時は高評価で「今回は1位をとるぞー」とはりきっていました。試食を作る度にもっと濃い味にしようと少し高価なワインナーを使いましょうなど、意見がでどんどんおいしくなっていきました。結果は残念に終わりましたけど・・・。でもたくさんの人に『おいしー』と食べてもらう事はすごくうれしいものです。



屋台村の料理を食べながら、笑顔で話をされている利用者さん、その家族の人達をみると、みんなで集まる機会も出来いい企画になって良かったなーと思いました。

職員による催しはドリフのひげダンスを披露しました。衣装をそれぞれ準備し練習をたくさんしました。みんなの反応はどうだったでしょうか? 人の前で何かを演じる経験の少ない職員達にとっては、はずかしかったですがすごく楽しむ事ができたかなと思っています。いつもの活動とは違う経験をさせてもらい、今後のこだまでの活動にもつなげていきたいとおもいます。



今回の屋台村の投票で見事グランプリに輝いたのは、ホームヘルプサービス部の東北復興支援屋台の浪江焼きそばとせんべい汁でした。おめでとうございます。

【井川 樹】

イルミネーションツアー 12月1日

2012年度の冬企画として備北丘陵公園イルミネーションツアーが開催されました。備北へのイルミネーションツアーは実に4年ぶりになります。

行きのバス車内ではイベントとしてbingo大会が開催されました。景品は、今までのこだまのイベントの中で最高額の景品(があたるかもしれない権利)を手にすることができます、年末ジャンボ宝くじもありました。バス移動の時間はあっという間に過ぎ、17時過ぎ



には備北公園に到着しました。少しずつ暗くなつて雰囲気も出てちょうど良いタイミングでした。バスから降りた瞬間、ずっと静かに乗車していた利用者の方の「うわあ！すごーい！！」という一言がとても印象的でした。集合時間の確認をして各自出発です。外はもう真っ暗ですので、近くに来ないと誰かもわからない状態でした。



先に腹ごしらえをする方、まずは見てから！と広い園内を歩いていかれる方、たき火の前でまずは暖まる方がおられました。会場の奥深く進むと、迫力満点の龍に出会うことができました。歩いて見て回ってすれ違うたびに「キレイですねー。」とまるで合言葉のようになっていました。

楽しかった時間は過ぎるのが早いもので、備北出発の時間が近付いてきます。良い笑顔をたくさん見ることができてとても感激的なイルミネーションツアーでした。次回も今回の企画に負けないような楽しいものにしたいと強く決意しました。



【野津 拓馬】

心に響く伊藤看護士の四季折々のメッセージ・・・

感性を磨くには

あなたの周りには、あなたに注意や忠告をしてくれる人がいますか？

もし、注意や忠告をしてくれる人がいるならば、あなたはとても恵まれていると言えるでしょう。

なぜなら、忠告されるということは、まだ周囲から期待されているということだからです。

自分の欠点や問題点に対する他人からの素直な意見は、確かに嫌なことですが、これはむしろ重要な意味を持っています。普段の自分が、周囲にどのように見えているのか知っておくことは重要なことです。自分をさらに磨くためには、今の自分に欠けているものを知ることも大切だからです。

完全な人間などいないのですから、自分の欠点を指摘されたからと言ってがっかりすることはありません。自分のマイナスを知ることは、それだけ進歩の余地があり「あなたに期待している」ということなのです。心地の良い情報だけが身の回りに置かれれば、その人の感性が失われて行きます。時には他人からの厳しい批判や評判にも耳を貸すことが大切なのです。



自分が岐路にたたされると自覚して、それをどう解決するか考えるべきなのです。避難されて悔しいと思うのか、反省して自分の生き方を変えるのか、あるいはあくまで他人の忠告など関係なく自分の生き方を貫くか。多くの選択肢がありますが、それを選ぶのかはあなたの問題でありあなた自身の生き方です。忠告されたことでどれだけ自分自身が成長出来るかは、あなた次第なのです。

このように考えて行く為には、心に余裕が必要です。忙しく日々をこなして行くだけでなく、自分とともに考える余裕を持って、感性を磨いていきましょう。

【伊藤 和枝】

また重度障がい者の日中活動の場が市内には少なく、こだまを希望する方がいぜん多い。小規模の事業所を目指すこだまがこれ以上定員を増やしていくことは出来ないと思うが、姉妹事業所をつくっていく方向はどうだろう。これまでこだまが培って来た事業手腕（？）を惜しみなく提供していきたいと思う。

これから若い職員達が、自分の理想を掲げて仕事がしていかれるような土壌づくりを今年は求められているように感じる。法人として個人として、こ



れまでの10年の活動を振り返り、これから10年に繋がる取り組みの創造や考え方を伝えることが大切だと考えている。【山田 久】

後記

便りづくりを久ぶりに担当しました。本来は12月の終わりにお届けしたいと思ってましたが、年を明けてのお届けになりました。お詫びいたします。

それにしても最近のパソコンには、便利なソフトが入っているなー！というのが実感です。以前のように、文章やイラストを切り貼りして作るのではなく、パソコンの中で編集がスラスラと出来てしまうんですねー。時代は変わっています。ムリ、無理と食わず嫌いにならず、何でも積極的に挑戦してみないと、便利さにはたどり着けないですね。これを機会にスマートフォンに変えようかなと、密かに企んでいますが、どうなるでしょう・・・。 【や】